

トヨタの
世界
戦略車

トヨタカローラに『魅力的な新しい家族』、 カローラクロス誕生!



カローラ半世紀以上の歴史の中で 初めて登場した本格派SUV TOYOTA COROLLA CROSS

■テキスト=横山 聡史 (Lucky Wagon) ■Photo=川村 勲 (川村写真事務所)
■取材協力=トヨタカローラ札幌 本店 TEL(011) 820-1212

プロフィール

半世紀以上、
人気車であり続けるカローラ

カローラシリーズに新たなモデル、カローラクロスが加わった。長きにわたり日本車のベシックであり続けてきたカローラにとって、初めての本格派SUVである。

18年にカローラスポーツ、19年にセダンとツリーングが発売され、多彩なバリエーションを形成しているトヨタカローラ。

一方、ヤリスクロス・ライズ・C-HR・RAV4・ハリアー・ランドクルーザー...とSUVのフルラインアップを誇るトヨタにあって、カローラクロスはどのようなターゲットに向け、どのような使命を持って生まれてきたのか。

今回はトヨタカローラ札幌各店の方々からのメッセージも交え、トヨタカローラファミリーの魅力を探っていくと思う。

まずカローラの歴史を大まかに振り返ると、現行カローラは12代目にあたる。初代のデビューは'66年。ビートルズが来日、グループサウンズが流行、日本の総人口が一億人を突破した年であった。ベシックカーとしてだけではない。'72年にTE27型と呼ばれるカローラレビンが登場、'83年にはAE86型が発売され、クルマ好きの間では今や伝説的なスポーツモデルとして語り継がれている。'83年には5代目セダン/5ドアハッチバックが初めてFFとなる。'87年の6代目では1.5L以上のエンジンが全てハイメカツインカムになり、バブル崩壊という大きな変化を経験しつつも、'00年の9代目ではワゴンがカローラフィールダーとして独立したほか、カローラ初、横滑り防止機構やトラクション・コントロールといった安全装備の充実を図る。プラットフォームの一新とともにスポーツ系グレードとレビンが廃止されたのもこの年で、外観デザインがふくよかなものへ変貌を遂げるなど、大胆な変化があった。

世界各国の交通事情に合わせて様々な仕様が開発される一方、国内仕様の5ナンバーサイズセダンは'06年にカローラアクシオとして別ラインアップとなり、現在も継続中。派生モデルや海外仕様などを追っていくと膨大な文字